

**後発医薬品の安心使用にかかる意識調査**  
**－報告書－**

**平成 20 年度**

## ◆◆◆ 目 次 ◆◆◆

I. 文献調査.....	1
1. 後発医薬品の現状.....	1
2. 後発医薬品使用促進意識.....	12
(1) 入院患者に対する後発医薬品の使用状況.....	12
(2) 院外処方における後発医薬品の使用状況.....	14
3. 後発医薬品啓発（広報等）の充実度意識.....	22
4. 医療機関及び一般国民における後発医薬品の認知度、問題点.....	23
(1) 認知度.....	23
(2) 問題点.....	36
5. 医療機関規模別、診療科目別の後発医薬品企業への要望.....	38
II. 一般国民向けアンケート調査結果.....	42
1. アンケート実施概要.....	42
2. 回答者属性.....	43
(1) 性別.....	43
(2) 年齢.....	43
(3) 居住地.....	43
(4) 職業.....	44
(5) 世帯年収.....	45
3. アンケート結果.....	46
(1) ジェネリック医薬品の認知度.....	46
(2) 後発医薬品を知ったきっかけ.....	48
(3) 情報の有効度.....	51
(4) 薬局の処方せん窓口でジェネリック医薬品を勧められた経験.....	55
(5) 処方せんの「変更不可」欄の認知度.....	57
(6) ジェネリック医薬品の使用の有無.....	58
(7) 初めてジェネリック医薬品を使用したきっかけ.....	59
(8) 先発医薬品と比較したジェネリック医薬品の効き目.....	60
(9) 薬局や医療機関の窓口で支払ったお薬代について.....	62
(10) ジェネリック医薬品を使用後先発医薬品に戻した経験の有無.....	63
(11) ジェネリック医薬品の使用をやめた理由.....	65

(12)	ジェネリック医薬品に対するイメージ.....	68
(13)	ジェネリック医薬品の使用意向.....	72
(14)	ジェネリック医薬品の今後の使用意向.....	74
(15)	ジェネリック医薬品を選ぶ際にメーカーに関して重視すること.....	78
(16)	常用薬の有無.....	81
(17)	平成20年4月以降の平均1か月あたりのお薬代.....	82
(18)	どれだけ安くなればジェネリック医薬品を使用するか.....	83
(19)	薬の情報の入手経路.....	85
(20)	ジェネリック医薬品について必要な情報.....	88
(21)	「どこから」受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるか.....	91
(22)	「どのように」受ける情報がジェネリック医薬品の使用促進につながるか.....	94
(23)	薬局を選ぶ際に重視する項目.....	100
(24)	医薬品の取り扱い状況による薬局の選択.....	101
(25)	どのようなツールがあればジェネリック医薬品を依頼しやすいか.....	103
III.	まとめ.....	105

# 1. 文献調査

## 1. 後発医薬品の現状

厚生労働省「社会医療診療行為別調査」によると、「投薬」における「後発医薬品明細書出現率」は、2008年6月審査分では、総数で51.9%、入院で80.2%、入院外で50.5%となっている。経年の変化をみると、総数・入院・入院外のいずれも2002年から2008年にかけて増加傾向にある。

次に、病院・診療所別にみると、総数・入院・入院外のいずれの場合も、病院（それぞれ49.5%、80.1%、43.2%）よりも診療所（それぞれ52.8%、81.6%、52.6%）の後発医薬品明細書出現率が高くなっている。また、病院を施設類型別にみると、特定機能病院において総数・入院・入院外のいずれの場合も他の施設類型と比べ後発医薬品明細書出現率が低くなっている。

図表1 後発医薬品明細書出現率（投薬）〔施設種類別〕

		(各年6月審査分)						
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
総数	総数	44.8%	47.6%	49.2%	47.4%	49.9%	51.6%	51.9%
	病院	36.9%	39.6%	43.7%	42.7%	43.7%	47.2%	49.5%
	精神病院	54.0%	53.9%	57.0%	59.0%	56.8%	58.7%	64.4%
	結核療養所	30.9%	40.0%	35.2%	—	—	—	—
	特定機能病院	25.0%	26.5%	23.8%	22.4%	23.0%	26.5%	27.9%
	療養病床を有する病院	43.7%	47.8%	53.1%	47.3%	45.5%	55.1%	56.1%
	老人病院	54.5%	—	—	—	—	—	—
	一般病院	33.8%	36.7%	39.7%	39.6%	42.8%	44.2%	46.1%
	診療所	48.9%	51.3%	51.3%	49.4%	52.4%	52.9%	52.8%
	有床診療所	51.4%	53.1%	52.7%	52.0%	52.6%	54.2%	54.5%
無床診療所	48.1%	50.8%	50.9%	48.7%	52.4%	52.6%	52.4%	
入院	入院	66.6%	70.3%	74.3%	75.2%	75.2%	78.7%	80.2%
	病院	65.7%	69.5%	73.7%	74.7%	74.7%	78.3%	80.1%
	精神病院	71.9%	73.5%	76.9%	77.7%	74.1%	77.6%	84.8%
	結核療養所	33.3%	50.0%	42.4%	—	—	—	—
	特定機能病院	51.9%	55.1%	59.7%	55.5%	66.2%	69.7%	66.4%
	療養病床を有する病院	71.6%	77.6%	79.5%	80.4%	80.4%	83.6%	84.0%
	老人病院	86.9%	—	—	—	—	—	—
	一般病院	64.4%	68.2%	71.5%	72.6%	73.1%	76.6%	78.1%
	診療所	78.9%	80.2%	81.2%	80.8%	80.6%	82.4%	81.6%
	有床診療所	78.9%	80.2%	81.2%	80.8%	80.6%	82.4%	81.6%
無床診療所	—	—	—	—	—	—	—	
入院外	入院外	43.6%	46.4%	47.8%	46.0%	48.6%	50.3%	50.5%
	病院	31.9%	34.2%	37.9%	36.8%	38.0%	40.5%	43.2%
	精神病院	47.3%	47.6%	50.6%	52.4%	51.1%	53.5%	58.2%
	結核療養所	29.2%	31.1%	31.0%	—	—	—	—
	特定機能病院	19.1%	20.7%	22.1%	20.9%	20.8%	24.4%	26.2%
	療養病床を有する病院	40.6%	44.0%	48.7%	43.4%	41.4%	49.1%	51.6%
	老人病院	48.9%	—	—	—	—	—	—
	一般病院	28.3%	30.7%	33.1%	32.1%	35.9%	36.9%	38.6%
	診療所	48.7%	51.2%	51.1%	49.2%	52.3%	52.7%	52.6%
	有床診療所	50.8%	52.5%	52.0%	51.2%	51.8%	53.3%	53.6%
無床診療所	48.1%	50.8%	50.9%	48.7%	52.4%	52.6%	52.4%	

注1：診療行為区分「投薬」に「薬剤」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く）を集計対象とし、薬剤名不明は除外している。

注2：後発医薬品明細書出現率＝後発医薬品が出現した明細書件数÷明細書総件数×100

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

診療所診療科別に「投薬」における「後発医薬品明細書出現率」をみると、2008年6月審査分では、総数・入院・入院外のいずれの場合も、「耳鼻咽喉科」（それぞれ70.4%、89.2%、70.4%）、「眼科」（それぞれ63.2%、91.7%、63.0%）で割合が高くなっている。

図表2 後発医薬品明細書出現率（投薬）〔診療所診療科別〕

	(各年6月審査分)						
	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
総数	48.9%	51.3%	51.3%	49.4%	52.4%	52.9%	52.8%
内科	47.8%	52.2%	51.7%	47.6%	52.0%	53.7%	52.1%
精神科又は神経科	43.7%	48.5%	37.0%	40.4%	40.2%	44.7%	45.6%
小児科	49.9%	47.4%	45.9%	47.0%	49.2%	51.8%	50.0%
外科	50.4%	50.9%	52.2%	55.1%	56.1%	53.4%	54.5%
整形外科	53.2%	53.7%	49.2%	49.8%	50.5%	49.8%	48.6%
皮膚科	41.8%	36.6%	41.5%	44.3%	40.6%	44.5%	46.6%
泌尿器科	42.1%	43.9%	42.7%	42.6%	47.7%	48.5%	46.6%
産婦人科	29.9%	30.9%	33.0%	32.2%	34.0%	33.8%	36.3%
眼科	61.6%	61.6%	65.4%	63.0%	63.3%	60.8%	63.2%
耳鼻咽喉科	57.5%	60.1%	61.4%	62.0%	69.7%	67.3%	70.4%
その他	46.7%	49.6%	47.6%	47.4%	51.1%	52.6%	52.7%
入院	78.9%	80.2%	81.2%	80.8%	80.6%	82.4%	81.6%
内科	83.9%	81.9%	84.5%	85.3%	84.0%	85.1%	85.2%
精神科又は神経科	78.2%	80.5%	75.8%	74.1%	79.4%	82.2%	80.1%
小児科	67.4%	81.8%	82.6%	82.7%	82.9%	83.1%	81.5%
外科	85.7%	86.7%	87.7%	86.0%	88.0%	88.7%	87.1%
整形外科	73.6%	78.7%	77.8%	77.4%	75.6%	76.7%	77.7%
皮膚科	76.8%	82.3%	88.5%	84.6%	77.2%	79.8%	82.6%
泌尿器科	85.5%	84.5%	86.2%	87.1%	87.5%	86.4%	87.7%
産婦人科	66.9%	69.8%	69.7%	66.3%	68.6%	71.9%	72.0%
眼科	88.8%	89.0%	91.6%	92.5%	90.9%	92.7%	91.7%
耳鼻咽喉科	80.2%	84.9%	86.8%	88.2%	87.9%	89.4%	89.2%
その他	79.2%	79.2%	81.7%	82.1%	83.4%	83.0%	84.0%
入院外	48.7%	51.2%	51.1%	49.2%	52.3%	52.7%	52.6%
内科	47.7%	52.1%	51.6%	47.5%	51.9%	53.6%	51.9%
精神科又は神経科	43.6%	48.4%	37.0%	40.3%	40.2%	44.7%	45.6%
小児科	49.8%	47.3%	45.9%	46.9%	49.1%	51.7%	50.0%
外科	49.8%	50.4%	51.8%	54.6%	55.7%	52.8%	54.1%
整形外科	53.0%	53.4%	49.0%	49.6%	50.3%	49.6%	48.4%
皮膚科	41.7%	36.6%	41.5%	44.3%	40.6%	44.5%	46.6%
泌尿器科	41.5%	43.4%	42.2%	42.1%	47.3%	48.0%	46.1%
産婦人科	28.6%	29.5%	31.6%	31.0%	32.8%	32.4%	34.8%
眼科	61.5%	61.5%	65.3%	62.9%	63.1%	60.6%	63.0%
耳鼻咽喉科	57.4%	60.1%	61.4%	62.0%	69.7%	67.3%	70.4%
その他	46.1%	49.0%	46.9%	46.7%	50.5%	52.1%	52.1%

注1：診療行為を区分「投薬」に「薬剤」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く）を集計対象とし、薬剤名不明は除外している。

注2：後発医薬品明細書出現率＝後発医薬品が出現した明細書件数÷明細書総件数×100

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合をみると、2008年6月審査分では、総数で9.3%、入院で5.6%、入院外で9.7%となっている。

次に一般・老人医療別にみると、総数・入院・入院外のいずれにおいても、一般医療と老人医療で大差がみられない。

図表3 薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合（投薬）〔一般・老人医療別〕

		(各年6月審査分)						
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
総数		6.5%	7.6%	7.5%	7.7%	8.6%	9.2%	9.3%
	一般医療	6.2%	7.3%	7.3%	7.5%	8.5%	9.1%	9.3%
	老人医療	6.9%	8.1%	7.7%	8.1%	8.8%	9.5%	9.3%
入院		3.7%	4.1%	4.7%	4.9%	5.1%	5.2%	5.6%
	一般医療	3.7%	4.3%	4.4%	4.7%	4.9%	4.9%	5.5%
	老人医療	3.7%	3.9%	5.0%	5.1%	5.3%	5.7%	5.8%
入院外		6.8%	8.0%	7.8%	8.0%	9.0%	9.7%	9.7%
	一般医療	6.5%	7.6%	7.6%	7.7%	8.8%	9.5%	9.7%
	老人医療	7.3%	8.6%	8.1%	8.5%	9.2%	10.0%	9.8%

注：診療行為区分「投薬」に「薬剤」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く）を集計対象とし、薬剤名不明は除外している。

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

病院・診療所別に薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合をみると、総数・入院・入院外のいずれの場合においても、病院（それぞれ5.3%、5.4%、5.3%）よりも診療所（それぞれ12.7%、9.6%、12.7%）の割合が高くなっている。経年の変化をみると、総数・入院・入院外のいずれも2002年から2008年にかけて、わずかではあるが増加傾向にある。

病院について施設類型別にみると、特に特定機能病院における薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合が低くなっている（それぞれ2.2%、1.9%、2.3%）が、これはDPCに係る明細書が除外されているためと思われる。

図表4 薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合（投薬）〔施設種類別〕

(各年6月審査分)

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
総数	6.5%	7.6%	7.5%	7.7%	8.6%	9.2%	9.3%
病院	3.6%	4.0%	4.2%	4.4%	4.6%	4.8%	5.3%
精神病院	7.8%	7.6%	7.3%	7.4%	6.9%	7.5%	8.5%
結核療養所	1.5%	1.9%	1.9%	—	—	—	—
特定機能病院	1.6%	1.6%	1.6%	2.0%	1.9%	1.8%	2.2%
療養病床を有する病院	4.8%	5.9%	6.5%	5.7%	5.6%	7.5%	7.3%
老人病院	6.0%	—	—	—	—	—	—
一般病院	3.0%	3.3%	3.3%	3.5%	39.3%	4.0%	4.4%
診療所	9.7%	11.4%	10.2%	10.8%	47.9%	12.4%	12.7%
有床診療所	10.4%	11.8%	11.3%	11.3%	46.8%	13.2%	12.7%
無床診療所	9.4%	11.3%	9.9%	10.6%	37.8%	12.2%	12.7%
入院	3.7%	4.1%	4.7%	4.9%	5.1%	5.2%	5.6%
病院	3.5%	3.8%	4.4%	4.7%	4.9%	4.9%	5.4%
精神病院	7.4%	7.8%	7.4%	7.0%	6.7%	7.2%	8.4%
結核療養所	1.4%	2.2%	2.4%	—	—	—	—
特定機能病院	1.5%	1.8%	1.4%	1.9%	2.1%	2.0%	1.9%
療養病床を有する病院	4.1%	5.5%	5.7%	6.2%	6.7%	6.9%	7.5%
老人病院	6.3%	—	—	—	—	—	—
一般病院	2.7%	2.9%	3.3%	3.7%	4.0%	3.7%	4.1%
診療所	9.3%	10.6%	10.0%	9.7%	9.7%	10.4%	9.6%
有床診療所	9.3%	10.6%	10.0%	9.7%	9.7%	10.4%	9.6%
無床診療所	—	—	—	—	—	—	—
入院外	6.8%	8.0%	7.8%	8.0%	9.0%	9.7%	9.7%
病院	3.6%	4.0%	4.2%	4.3%	4.6%	4.8%	5.3%
精神病院	8.2%	7.4%	7.2%	7.7%	7.0%	7.7%	8.5%
結核療養所	1.5%	1.5%	1.5%	—	—	—	—
特定機能病院	1.6%	1.6%	1.6%	2.0%	1.9%	1.7%	2.3%
療養病床を有する病院	4.9%	6.0%	6.6%	5.6%	5.5%	7.7%	7.3%
老人病院	6.0%	—	—	—	—	—	—
一般病院	3.1%	3.5%	3.3%	3.5%	4.2%	4.1%	4.5%
診療所	9.7%	11.4%	10.2%	10.8%	12.2%	12.4%	12.7%
有床診療所	10.5%	11.9%	11.4%	11.4%	11.3%	13.4%	12.8%
無床診療所	9.4%	11.3%	9.9%	10.6%	12.4%	12.2%	12.7%

注：診療行為を区分「投薬」に「薬剤」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く）を集計対象とし、薬剤名不明は除外している。

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

診療所診療科別に薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合をみると、2008年6月審査分では、総数・入院・入院外のいずれの場合も、「耳鼻咽喉科」（それぞれ21.9%、11.8%、21.9%）で割合が最も高くなっている。

図表5 薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合（投薬）〔診療所診療科別〕

		(各年6月審査分)						
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
総数		9.7%	11.4%	10.2%	10.8%	12.2%	12.4%	12.7%
	内科	8.8%	11.0%	9.5%	9.6%	11.6%	11.8%	11.7%
	精神科又は神経科	9.0%	9.4%	7.3%	7.6%	7.5%	8.1%	8.2%
	小児科	8.4%	7.7%	8.0%	8.5%	10.3%	9.7%	9.1%
	外科	10.2%	11.1%	12.3%	14.2%	13.2%	13.5%	12.3%
	整形外科	13.4%	12.8%	11.3%	10.7%	11.5%	10.8%	12.1%
	皮膚科	12.8%	13.0%	12.8%	16.7%	16.5%	17.8%	20.0%
	泌尿器科	9.5%	11.8%	10.3%	10.3%	15.6%	17.0%	13.5%
	産婦人科	7.8%	7.8%	7.5%	8.4%	8.5%	10.0%	10.4%
	眼科	16.8%	19.4%	19.2%	18.9%	20.2%	20.3%	20.4%
	耳鼻咽喉科	12.1%	16.1%	14.7%	18.8%	15.3%	19.3%	21.9%
その他	6.3%	6.9%	6.1%	6.3%	7.4%	8.1%	8.0%	
入院		9.3%	10.6%	10.0%	9.7%	9.7%	10.4%	9.6%
	内科	10.3%	10.8%	10.1%	10.1%	9.7%	10.6%	9.3%
	精神科又は神経科	10.1%	8.7%	7.8%	8.0%	7.2%	7.8%	9.0%
	小児科	6.2%	6.8%	5.4%	22.4%	7.3%	11.0%	9.0%
	外科	9.1%	10.9%	11.5%	9.5%	10.7%	10.2%	10.8%
	整形外科	8.9%	11.7%	10.9%	9.6%	10.1%	10.2%	9.3%
	皮膚科	10.9%	12.9%	12.7%	7.2%	8.9%	12.2%	10.1%
	泌尿器科	8.5%	11.7%	8.8%	9.2%	9.6%	11.1%	10.1%
	産婦人科	8.5%	7.7%	7.8%	8.2%	8.0%	11.1%	10.3%
	眼科	5.1%	10.7%	8.0%	8.1%	8.1%	8.7%	7.1%
	耳鼻咽喉科	11.3%	15.0%	15.7%	16.7%	17.1%	23.5%	11.8%
その他	6.6%	6.7%	6.9%	6.6%	7.5%	8.7%	8.4%	
入院外		9.7%	11.4%	10.2%	10.8%	12.2%	12.4%	12.7%
	内科	8.8%	11.0%	9.5%	9.6%	11.6%	11.8%	11.7%
	精神科又は神経科	9.0%	9.4%	7.3%	7.6%	7.5%	8.1%	8.2%
	小児科	8.4%	7.7%	8.1%	8.5%	10.3%	9.7%	9.1%
	外科	10.2%	11.1%	12.4%	14.3%	13.3%	13.6%	12.3%
	整形外科	13.5%	12.8%	11.3%	10.7%	11.5%	10.8%	12.1%
	皮膚科	12.8%	13.0%	12.8%	16.7%	16.5%	17.8%	20.0%
	泌尿器科	9.5%	11.8%	10.4%	10.3%	15.8%	17.1%	13.6%
	産婦人科	7.8%	7.8%	7.5%	8.4%	8.5%	10.0%	10.4%
	眼科	16.9%	19.5%	19.3%	19.0%	20.4%	20.5%	20.5%
	耳鼻咽喉科	12.1%	16.1%	14.7%	18.8%	15.3%	19.3%	21.9%
その他	6.3%	6.9%	6.1%	6.3%	7.4%	8.1%	8.0%	

注：診療行為区分「投薬」に「薬剤」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く）を集計対象とし、薬剤名不明は除外している。

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

1件当たり後発医薬品の種類数をみると、2008年6月審査分では、総数で0.91品目、入院で1.18品目、入院外で0.9品目となっている。経年の変化をみると、総数・入院・入院外のいずれも2002年から2008年にかけて増加傾向にある。

次に、一般・老人医療別に1件当たり後発医薬品の種類数をみると、総数・入院・入院外のいずれにおいても、一般医療と比べて老人医療の方が、種類数が多くなっている。

図表6 1件当たり後発医薬品の種類数（投薬）〔一般・老人医療別〕

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
総数	0.71	0.77	0.81	0.77	0.85	0.89	0.91
一般医療	0.63	0.69	0.72	0.69	0.77	0.81	0.82
老人医療	0.88	0.95	1.00	0.98	1.08	1.13	1.16
入院	0.74	0.81	0.96	0.98	0.97	1.14	1.18
一般医療	0.66	0.74	0.87	0.90	0.86	1.08	1.10
老人医療	0.83	0.90	1.08	1.09	1.13	1.21	1.26
入院外	0.71	0.77	0.80	0.76	0.85	0.88	0.90
一般医療	0.63	0.69	0.71	0.68	0.77	0.80	0.81
老人医療	0.89	0.96	0.99	0.97	1.07	1.12	1.15

注1：診療行為区分「投薬」に「薬剤」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く）を集計対象とし、薬剤名不明は除外している。

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合をみると、2008年6月審査分では、総数で24.4%、入院で17.4%、入院外で25.2%となっている。経年の変化をみると、総数・入院・入院外のいずれも2002年から2008年にかけて増加傾向にある。

図表7 1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合（投薬）〔一般・老人医療別〕

	(各年6月審査分)						
	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
総数	19.0%	20.6%	21.7%	21.2%	23.0%	24.0%	24.4%
一般医療	18.6%	20.2%	21.1%	20.9%	22.7%	23.7%	24.2%
老人医療	19.4%	21.5%	22.3%	22.0%	23.9%	24.6%	24.7%
入院	11.2%	12.4%	14.5%	15.1%	15.0%	17.2%	17.4%
一般医療	10.9%	12.3%	14.3%	15.0%	14.5%	17.3%	17.1%
老人医療	11.3%	12.5%	14.8%	15.4%	15.7%	17.1%	17.4%
入院外	19.9%	21.6%	22.3%	21.8%	23.9%	24.6%	25.2%
一般医療	19.3%	21.0%	21.6%	21.3%	23.5%	24.1%	24.7%
老人医療	20.7%	22.9%	23.2%	22.8%	24.9%	25.6%	25.8%

注1：診療行為区分「投薬」に「薬剤」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く）を集計対象とし、薬剤名不明は除外している。

注2：「後発医薬品」は、1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数である。

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

施設種類別に1件当たり後発医薬品の種類数をみると、2007年6月審査分では、総数・入院・入院外のいずれの場合も、病院（それぞれ0.7、1.11、0.62）に比べ診療所（それぞれ0.94、1.42、0.94）の種類数が多くなっている。

図表8 1件当たり後発医薬品の種類数（投薬）【施設種類別】

（各年6月審査分）

	2002	2003	2004	2005	2006	2007
総数	0.71	0.77	0.81	0.77	0.85	0.89
病院	0.47	0.52	0.60	0.59	0.62	0.70
精神病院	1.13	1.11	1.22	1.29	1.22	1.36
結核療養所	0.33	0.51	0.49	—	—	—
特定機能病院	0.23	0.25	0.24	0.23	0.24	0.29
療養病床を有する病院	0.66	0.77	0.82	0.76	0.70	0.99
老人病院	0.83	—	—	—	—	—
一般病院	0.36	0.41	0.47	0.45	0.53	0.55
診療所	0.83	0.89	0.89	0.85	0.95	0.94
有床診療所	0.86	0.91	0.92	0.90	0.91	0.94
無床診療所	0.82	0.88	0.88	0.83	0.96	0.94
入院	0.74	0.81	0.96	0.98	0.97	1.14
病院	0.69	0.76	0.92	0.96	0.94	1.11
精神病院	1.72	1.81	1.99	1.95	1.90	2.28
結核療養所	0.30	0.65	0.64	—	—	—
特定機能病院	0.38	0.45	0.58	0.52	0.75	0.72
療養病床を有する病院	0.87	1.03	1.08	1.24	1.11	1.40
老人病院	1.35	—	—	—	—	—
一般病院	0.53	0.59	0.73	0.72	0.75	0.85
診療所	1.32	1.43	1.37	1.30	1.36	1.42
有床診療所	1.32	1.43	1.37	1.30	1.36	1.42
無床診療所						
入院外	0.71	0.77	0.80	0.76	0.85	0.88
病院	0.43	0.48	0.53	0.53	0.56	0.62
精神病院	0.91	0.89	0.97	1.05	1.00	1.10
結核療養所	0.35	0.38	0.41	—	—	—
特定機能病院	0.20	0.21	0.22	0.22	0.21	0.26
療養病床を有する病院	0.64	0.73	0.78	0.70	0.65	0.90
老人病院	0.75	—	—	—	—	—
一般病院	0.33	0.38	0.41	0.38	0.48	0.48
診療所	0.83	0.89	0.88	0.84	0.95	0.94
有床診療所	0.85	0.90	0.91	0.88	0.89	0.93
無床診療所	0.82	0.88	0.88	0.83	0.96	0.94

注1：入院は「投薬」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く）を集計の対象としている。  
出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

施設種類別に1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合をみると、2007年6月審査分では、総数・入院・入院外のいずれの場合も、病院（それぞれ16.1%、16.6%、16.1%）に比べ診療所（それぞれ26.7%、23.4%、26.8%）の種類数が多くなっている。

図表9 1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合（投薬）  
[施設種類別]

(各年6月審査分)

	2002	2003	2004	2005	2006	2007
総数	19.0%	20.6%	21.7%	21.2%	23.0%	24.0%
病院	11.2%	12.2%	14.1%	14.0%	14.8%	16.1%
精神病院	18.4%	18.5%	20.0%	21.1%	20.2%	23.1%
結核療養所	5.4%	7.7%	9.6%	—	—	—
特定機能病院	5.4%	6.0%	6.3%	6.1%	6.4%	7.4%
療養病床を有する病院	15.2%	17.4%	18.1%	17.5%	17.2%	21.5%
老人病院	18.0%	—	—	—	—	—
一般病院	9.0%	10.0%	11.7%	11.4%	13.0%	13.4%
診療所	23.9%	25.6%	25.3%	25.1%	27.1%	26.7%
有床診療所	24.7%	26.1%	26.4%	26.2%	25.9%	27.3%
無床診療所	23.6%	25.3%	24.9%	24.6%	27.5%	26.6%
入院	11.2%	12.4%	14.5%	15.1%	15.0%	17.2%
病院	10.4%	11.6%	13.8%	14.7%	14.5%	16.6%
精神病院	18.3%	19.5%	20.5%	21.0%	19.5%	23.1%
結核療養所	3.5%	6.9%	9.0%	—	—	—
特定機能病院	5.5%	6.4%	6.9%	6.2%	9.1%	8.2%
療養病床を有する病院	13.2%	16.0%	16.3%	18.4%	17.6%	20.8%
老人病院	20.9%	—	—	—	—	—
一般病院	8.5%	9.5%	11.7%	12.0%	12.4%	13.8%
診療所	21.3%	22.6%	22.3%	21.2%	22.4%	23.4%
有床診療所	21.3%	22.6%	22.3%	21.2%	22.4%	23.4%
無床診療所	—	—	—	—	—	—
入院外	19.9%	21.6%	22.3%	21.8%	23.9%	24.6%
病院	11.3%	12.5%	13.9%	14.0%	14.9%	16.1%
精神病院	18.5%	18.0%	19.7%	21.1%	20.7%	22.9%
結核療養所	8.1%	9.3%	10.3%	—	—	—
特定機能病院	5.4%	5.9%	6.2%	6.1%	5.9%	7.0%
療養病床を有する病院	15.6%	17.5%	18.7%	17.2%	17.0%	21.6%
老人病院	17.4%	—	—	—	—	—
一般病院	9.1%	10.3%	11.5%	10.9%	13.3%	13.2%
診療所	24.0%	25.7%	25.1%	24.9%	27.3%	26.8%
有床診療所	24.9%	26.4%	26.6%	26.1%	25.8%	27.7%
無床診療所	23.6%	25.3%	24.9%	24.6%	27.5%	26.6%

注1：入院は「投薬」の出現する明細書（ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く）を集計の対象としている。

注2：1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合＝1件当たり後発医薬品の種類数×100÷1件当たり薬剤種類数

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

診療所診療科別に1件当たり後発医薬品の種類数をみると、2007年6月審査分では、総数では「耳鼻咽喉科」(1.09品目)、入院では「整形外科」(2.99品目)、入院外では「耳鼻咽喉科」(1.09品目)が最も多くなっている。

図表10 1件当たり後発医薬品の種類数(投薬) [診療所診療科別]

	2002	2003	2004	2005	2006	2007
総数	0.83	0.89	0.89	0.85	0.95	0.94
内科	0.90	1.03	0.99	0.90	1.05	1.06
精神科又は神経科	0.92	0.94	0.72	0.80	0.83	0.89
小児科	0.84	0.73	0.77	0.78	0.87	0.90
外科	0.90	0.89	1.01	1.05	1.11	1.02
整形外科	0.81	0.74	0.74	0.72	0.78	0.67
皮膚科	0.70	0.54	0.65	0.71	0.68	0.75
泌尿器科	0.63	0.70	0.69	0.68	0.79	0.81
産婦人科	0.37	0.35	0.40	0.41	0.39	0.40
眼科	0.73	0.74	0.80	0.76	0.83	0.77
耳鼻咽喉科	0.81	0.82	0.76	1.00	1.11	1.09
その他	0.78	0.90	0.82	0.83	0.91	0.97
入院	1.32	1.43	1.37	1.30	1.36	1.42
内科	1.93	1.96	1.84	1.71	1.81	1.89
精神科又は神経科	2.41	2.27	1.91	1.83	1.67	2.04
小児科	0.73	0.92	0.90	1.27	0.99	0.97
外科	1.51	1.79	1.76	1.59	1.81	1.72
整形外科	1.18	1.32	1.29	1.31	1.37	1.34
皮膚科	2.77	2.82	3.08	2.57	2.20	2.99
泌尿器科	1.35	1.46	1.45	1.42	1.51	1.53
産婦人科	0.53	0.54	0.56	0.53	0.55	0.70
眼科	0.88	0.99	0.94	0.94	0.98	1.10
耳鼻咽喉科	1.22	1.47	1.52	1.49	1.55	1.69
その他	1.46	1.57	1.61	1.59	1.67	1.76
入院外	0.83	0.89	0.88	0.84	0.95	0.94
内科	0.89	1.03	0.98	0.90	1.05	1.06
精神科又は神経科	0.92	0.94	0.72	0.80	0.82	0.89
小児科	0.84	0.73	0.77	0.78	0.87	0.90
外科	0.89	0.88	1.00	1.04	1.10	1.01
整形外科	0.81	0.73	0.74	0.72	0.77	0.66
皮膚科	0.70	0.54	0.65	0.71	0.68	0.75
泌尿器科	0.62	0.69	0.68	0.67	0.78	0.80
産婦人科	0.36	0.34	0.39	0.40	0.39	0.39
眼科	0.73	0.74	0.80	0.76	0.83	0.76
耳鼻咽喉科	0.81	0.82	0.76	1.00	1.11	1.09
その他	0.77	0.88	0.80	0.81	0.90	0.95

注1：入院は「投薬」の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く)を集計の対象としている。  
出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

診療所診療科別に1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合をみると、総数と入院外では「眼科」(それぞれ40.7%、40.6%)、「耳鼻咽喉科」(それぞれ35.0%)、入院では「皮膚科」(32.4%)、「耳鼻咽喉科」(29.1%)で割合が高くなっている。

図表 11 1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合(投薬)  
[診療所診療科別]

(各年6月審査分)						
	2002	2003	2004	2005	2006	2007
総数	23.9%	25.6%	25.3%	25.1%	27.1%	26.7%
内科	22.8%	26.1%	24.6%	23.5%	26.5%	26.4%
精神科又は神経科	24.0%	24.0%	19.1%	21.0%	21.9%	23.4%
小児科	19.9%	18.9%	20.0%	20.6%	22.7%	22.1%
外科	24.4%	24.6%	27.8%	28.8%	29.1%	27.9%
整形外科	27.9%	26.3%	25.7%	24.6%	27.3%	22.9%
皮膚科	25.5%	20.4%	24.2%	26.1%	24.5%	27.3%
泌尿器科	21.6%	24.2%	25.2%	24.0%	28.0%	28.6%
産婦人科	16.0%	15.2%	17.0%	17.2%	16.0%	17.2%
眼科	36.3%	37.6%	40.4%	39.6%	41.9%	40.7%
耳鼻咽喉科	26.9%	27.2%	26.7%	33.9%	32.2%	35.0%
その他	16.4%	19.5%	17.0%	17.5%	18.6%	20.0%
入院	21.3%	22.6%	22.3%	21.2%	22.4%	23.4%
内科	24.7%	25.1%	24.8%	23.3%	24.3%	25.1%
精神科又は神経科	24.6%	23.8%	21.0%	21.5%	19.5%	23.2%
小児科	16.6%	17.9%	16.3%	18.4%	17.7%	19.4%
外科	21.5%	24.9%	24.9%	22.9%	25.4%	24.4%
整形外科	21.5%	23.5%	23.2%	22.5%	23.4%	23.2%
皮膚科	35.2%	35.0%	35.4%	28.9%	27.8%	32.4%
泌尿器科	21.1%	22.7%	22.8%	22.7%	23.5%	24.5%
産婦人科	15.7%	15.3%	16.4%	15.7%	16.8%	21.3%
眼科	12.7%	15.0%	14.4%	14.8%	15.9%	18.0%
耳鼻咽喉科	21.3%	25.7%	26.0%	25.3%	27.7%	29.1%
その他	16.2%	17.3%	17.2%	18.1%	19.3%	20.7%
入院外	24.0%	25.7%	25.1%	24.9%	27.3%	26.8%
内科	22.7%	26.1%	24.4%	23.6%	26.6%	26.5%
精神科又は神経科	24.0%	24.1%	19.2%	21.0%	21.7%	23.4%
小児科	19.9%	18.9%	20.1%	20.6%	22.7%	22.1%
外科	24.5%	24.6%	27.9%	28.9%	29.3%	28.1%
整形外科	28.1%	26.3%	25.9%	24.8%	27.1%	22.8%
皮膚科	25.5%	20.4%	24.2%	26.1%	24.5%	27.3%
泌尿器科	21.5%	24.3%	25.2%	24.0%	28.1%	28.7%
産婦人科	15.9%	15.0%	16.9%	17.0%	16.2%	17.0%
眼科	36.9%	38.1%	40.8%	40.0%	42.3%	40.6%
耳鼻咽喉科	26.9%	27.2%	26.7%	33.9%	32.2%	35.0%
その他	16.5%	19.4%	16.9%	17.3%	18.7%	19.8%

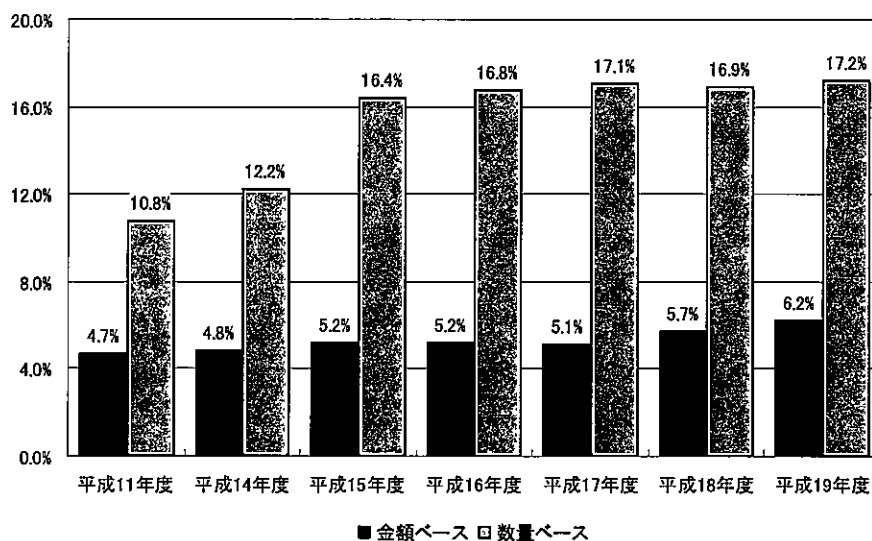
注1：入院は「投薬」の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書、「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書及びDPCに係る明細書は除く。)を集計の対象としている。

注2：1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数の割合=1件当たり後発医薬品の種類数×100÷1件当たり薬剤種類数

出所：厚生労働省「社会医療診療行為別調査」

日本ジェネリック製薬協会の調査結果によると、医療用医薬品における後発医薬品のシェアは、平成19年度は金額（薬価ベース）で6.2%、数量ベースで17.2%となっている。

図12 医療用医薬品における後発医薬品のシェア



出所：日本ジェネリック製薬協会 平成21年3月23日

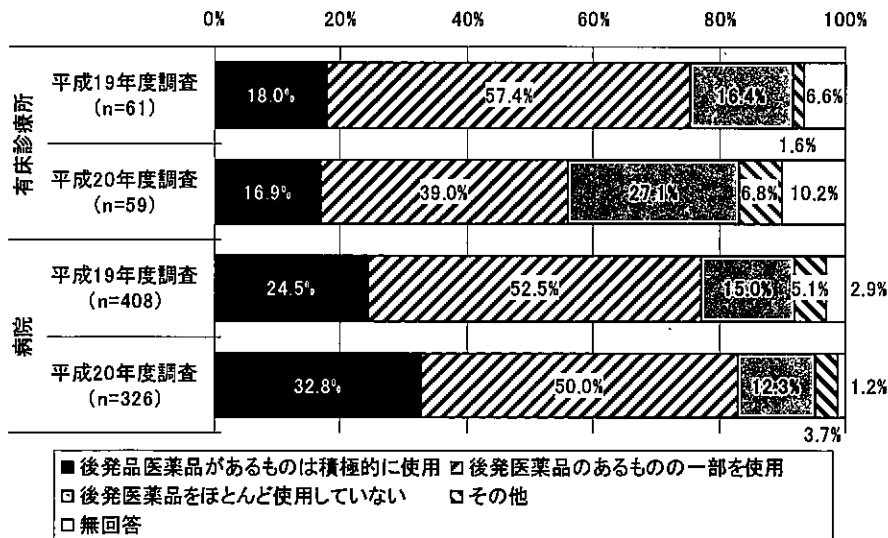
## 2. 後発医薬品使用促進意識

### (1) 入院患者に対する後発医薬品の使用状況

厚生労働省の「後発医薬品の使用状況調査」で入院患者に対する後発医薬品の使用状況についてみると、平成19年度調査では、有床診療所、病院ともに「後発医薬品のあるものの一部を使用」（それぞれ57.4%、52.5%）が最も多く、次いで、「後発医薬品があるものは積極的に使用」（それぞれ18.0%、24.5%）、「後発医薬品はほとんど使用していない」（それぞれ16.4%、15.0%）となっている。

平成20年度調査をみると、有床診療所、病院ともに「後発医薬品のあるものの一部を使用」（有床診療所39.0%、病院50.0%）が最も多い点で共通しているが、続く順位は、有床診療所では「後発医薬品をほとんど使用していない」（27.1%）、「後発医薬品があるものは積極的に使用」（16.9%）という順であったが、病院では「後発医薬品があるものは積極的に使用」（32.8%）、「後発医薬品をほとんど使用していない」（12.3%）という順であった。

図13 入院患者に対する後発医薬品の使用状況

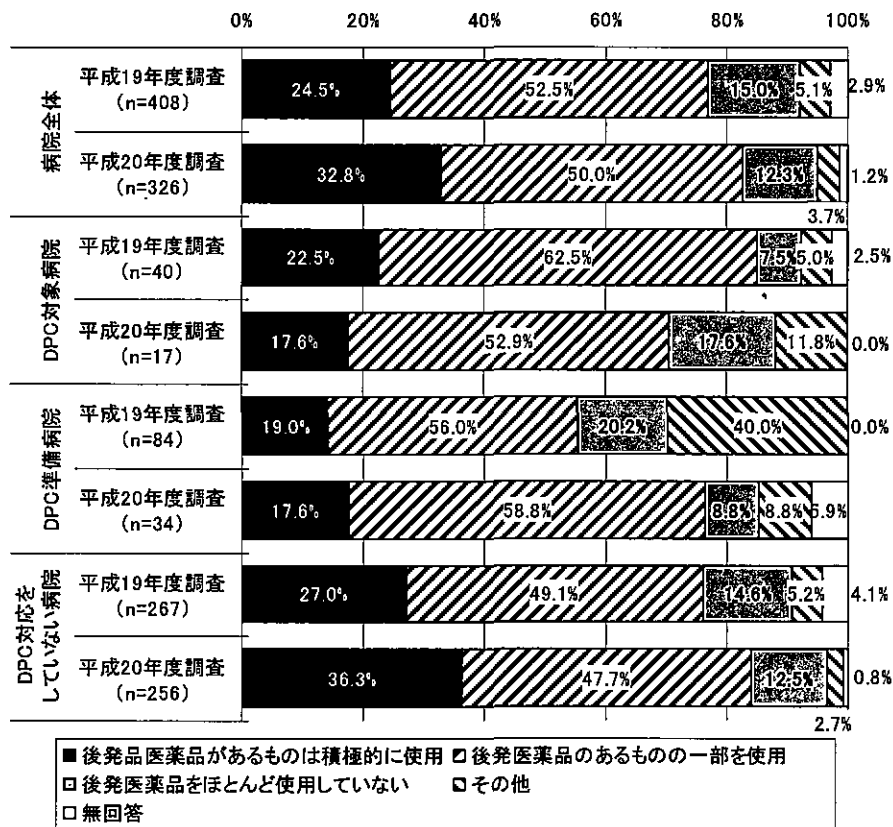


注：平成20年度調査の有床診療所については、平成20年12月1か月間の平均在院患者数が「0」であった施設を除いて集計した。

出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査」

また、DPC 対応状況別にみた病院における入院患者に対する後発医薬品の使用状況についてみると、DPC 対象病院では、平成 19 年度調査、平成 20 年度調査ともに「後発医薬品のあるものの一部を使用」（それぞれ 62.5%、52.9%）が最も多く、「後発医薬品があるものは積極的に使用」（それぞれ 22.5%、17.6%）を合わせるとそれぞれ 85.0%、70.5%となっている。「後発医薬品をほとんど使用していない」はそれぞれ 7.5%、17.6%であった。DPC 準備病院と DPC 対応をしていない病院において、「後発医薬品をほとんど使用していない」割合は、平成 19 年度調査では 20.2%、14.6%、平成 20 年度調査ではそれぞれ 8.8%、12.5%で、DPC 対象病院と比較して高くなっている。

図表 14 病院における入院患者に対する後発医薬品の使用状況（DPC 対応状況別）



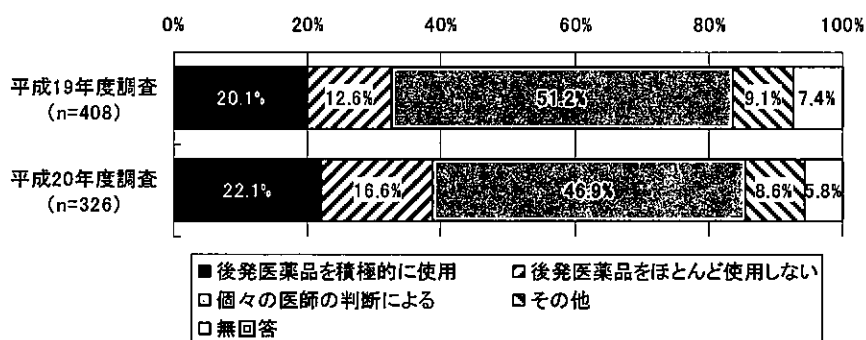
注：「全体」には、「DPC 対応状況」について無回答であった施設（平成 19 年度調査 17 施設、平成 20 年度調査 19 施設）が含まれる。

出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査」

## (2) 院外処方における後発医薬品の使用状況

病院における外来処方に際しての後発医薬品使用に関する施設としての対応方針についてみると、「個々の医師の判断による」が平成19年度調査、平成20年度調査ともに最も多かった（それぞれ51.2%、46.9%）。次いで、「後発医薬品を積極的に使用」（それぞれ20.1%、22.1%）、「後発医薬品をほとんど使用しない」（それぞれ12.6%、16.6%）の順となった。

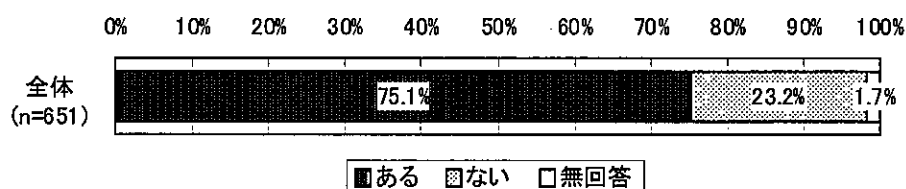
図表 15 病院における外来処方に際しての後発医薬品使用についての施設としての対応



注：平成19年度調査の「その他」の内容として、「採用品であれば後発医薬品を使用」「療養病棟については積極的に使用」「段階的に後発医薬品を導入」等の回答があげられた。  
出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査」

病院外来診療担当医における、後発医薬品の銘柄指定をした院外処方せん発行経験の有無についてみると、「ある」と回答した医師が75.1%であった。

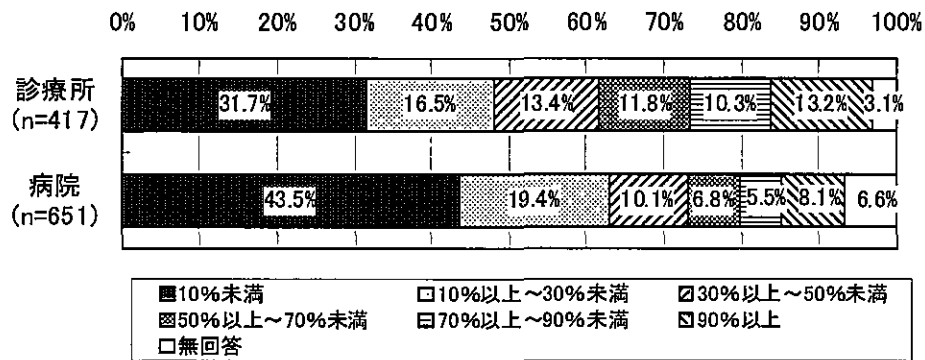
図表 16 病院外来診療担当医における、後発医薬品の銘柄指定をした院外処方せん発行経験の有無（医師ベース）



出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成19年度調査）」

院外処方せんを発行した患者のうち、後発医薬品を処方した患者の割合（「後発医薬品への変更可」に署名の場合も含む）を医師にたずねたところ、診療所、病院ともに「10%未満」（それぞれ31.7%、43.5%）とする医師が最も多く、次いで「10%以上～30%未満」（それぞれ16.5%、19.4%）、「30%以上～50%未満」（それぞれ13.4%、10.1%）であった。一方で、「90%以上」と回答した医師は、診療所では13.2%、病院では8.1%であった。

図表 17 院外処方せんを発行した患者のうち、後発医薬品を処方した患者の割合  
 (「後発医薬品への変更可」に署名の場合も含む) (医師ベース)



出所：厚生労働省「後発医薬品の使用状況調査（平成 19 年度調査）」

平成 20 年 4 月の診療報酬改定では、後発医薬品の更なる使用促進のために、処方せん様式が変更となり、処方医が後発医薬品に変更することに差し支えがあると判断した場合に、その意思表示として、所定の「後発医薬品への変更不可」のチェック欄に署名又は記名・押印することとなった。当該欄に処方医の署名等がない場合は、処方せんを受け付けた薬局において、患者の選択に基づき、後発医薬品への変更が可能となった。

この処方せん様式の変更を受け「後発医薬品への変更不可」欄に署名した処方せんの発行経験の有無について診療所および病院の医師にたずねたところ、「ある」と回答した医師は、診療所が 42.4% (206 人)、病院が 35.5% (153 人) であった。

また、「後発医薬品への変更不可」欄に署名した処方せんが、院外処方せん枚数全体に占める割合についてみると、診療所・病院ともに「10%未満」(それぞれ 42.2%、34.0%)と「90%以上」(それぞれ 38.8%、31.4%)が、ほぼ同じ割合となっている。